

# いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手  
第176号  
令和3年8月号



## 三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切に、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

開催

### パラリンピック聖火フェスティバル開催

岩手全域  
ALL IWATE

令和3年8月12日(木)から16日(月)まで、東京2020パラリンピック聖火フェスティバルが岩手県内で行われました。

「パラリンピック聖火はみんなのものであり、パラリンピックを応援する全ての人の熱意が集まってひとつの聖火を生み出す」という理念のもと、県内33市町村が共生社会への思いが込められた『聖火』を採火しました。



「3.11希望の灯り」からの採火の様子  
(陸前高田市)

陸前高田市では、震災津波の犠牲者の追悼と復興のシンボルとして気仙大工左官伝承館に設置された常設のガス灯モニュメント「3.11希望の灯り」から採火し、岩泉町では、龍泉洞の水を用いて太陽光を集光し採火するなど、市町村ごとに特色のある独自の方法で実施しました。



龍泉洞の水を用いて太陽光を集光した採火の様子(岩泉町)

8月16日(月)の夕方には、盛岡市で集火・出立式が行われました。集火に使用された聖火台は、障がいのあるアーティストがデザインした挿絵をメインに、龍泉洞の「青」、久慈琥珀の「琥珀色」、金色堂の「金」、リンドウの「紫」をそれぞれベースカラーとしており、聖火皿の部分は「南部鉄器」で制作されました。



集火に使用された聖火台

この特別な聖火台により、33市町村の思いをのせた聖火は盛岡市で1つの炎となり、開催都市・東京へ旅立ちました。そして、他の都道府県やイギリスのストーク・マンデビルの聖火と1つになり、24日(火)のパラリンピック開会で国立競技場に灯されました。



集火の様子



集火の様子



出立の様子

#### ■問い合わせ

岩手県文化スポーツ部  
オリンピック・パラリンピック推進室  
☎ 019-629-6496

### 「東京2020オリンピック聖火リレー」公式動画 公開

岩手県内28市町村を走行した「東京2020オリンピック聖火リレー」の公式動画を公開しましたので、ぜひご覧ください。また、東京2020組織委員会の公式ホームページにおいて、陸前高田市の震災時の状況や復興への思い、聖火リレーの様子を世界に伝える特別映像が公開されていますので、合わせてご覧ください。



6月16日(水)



6月17日(木)



6月18日(金)



特別映像





# 東京都内で復興の姿と支援感謝を発信

岩手県では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として東日本大震災津波から10年の節目に、東京都内で復興の姿と支援への感謝を発信しました。

開催

## 東北ハウス開催

東京都  
TOKYO

岩手県の魅力発信映像上映の様子

令和3年7月27日(火)と28日(水)の2日間、アキバ・スクエア(JR秋葉原駅前)で開催された東北・新潟の情報発信イベント「東北ハウス」で、岩手県デーが実施されました。



岩手県デーの様子

岩手県デーでは、釜石市の高校生の感謝メッセージや虎舞披露の動画等を上映して復興の姿と支援への感謝を発信するとともに、三陸の豊かな食や自然、伝統芸能等の魅力について発信しました。

■問い合わせ 岩手県商工労働観光部観光・プロモーション室  
☎ 019-629-5574

東北ハウス公式サイトはこちら➡



開催

## Tokyo Tokyo ALL JAPAN COLLECTION開催

東京都  
TOKYO

令和3年7月28日(水)から30日(金)まで、東京スポーツスクエア(JR有楽町駅前)で開催中の、東京と全国各地の魅力を体験するイベント「Tokyo Tokyo ALL JAPAN COLLECTION」に岩手県ブースを出展しました。

ブースでは、南部せんべいや漆器といった食や伝統工芸品の紹介と販売により県産品をPRするとともに、復興動画の上映などにより復興の姿を広く発信しました。



復興情報発信の様子



岩手県ブースの様子

■問い合わせ 岩手県商工労働観光部産業経済交流課  
☎ 019-629-5531

## 世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

令和3年8月5日(木)と6日(金)の2日間、東日本大震災津波伝承館では、東日本大震災津波の事実と教訓への理解を深め、学習旅行で伝承館を活用していただくため、県内の小中高校と特別支援学校の教員を対象とした現地研修会を開催し、約30名が参加しました。

研修会では、はじめに伝承館の職員と高田松原津波復興祈念公園パークガイドの案内で、伝承館の展示と「奇跡の一本松」や「旧気仙中学校」などの公園内の震災遺構を見学しました。

その後、伝承館の職員から、児童・生徒に対する解説のポイントや、学校の規模や人数に応じた見学モデルコースなどの説明を行いました。

参加者は、教員が震災津波を学ぶことの重要性や、震災後に生まれた世代の学習機会の必要性を実感しました。

東日本大震災津波伝承館では、次世代を担う子どもたちが震災津波について深く知り、防災意識を高める「学びの場」として、これからも復興教育の推進に取り組んでいきます。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館  
☎ 0192-47-4455



伝承館の展示を見学する参加者の様子



開催

## 三陸大船渡夏まつり開催

大船渡市  
OFUNATO

令和3年8月6日(金)と7日(土)の2日間、三陸・大船渡夏まつりが開催されました。

6日(金)には、大船渡湾内を、色とりどりの電飾をまとった海上七夕船団が巡回しました。中でも、東日本大震災津波の時にいったん流された後に戻った奇跡の船として知られる大船渡丸は、昨年度装いを新たにしてから初めてきらびやかな電飾をまといお披露目されました。



七夕船団運行パレードの様子  
(写真提供:三陸・大船渡夏まつり実行委員会)

7日(土)には、船団パレードと湾内から打ち上げられる約8,000発の花火が、1時間にわたり競演しました。



花火大会の様子  
(写真提供:三陸・大船渡夏まつり実行委員会)

新型コロナウイルス感染症の流行により2年ぶりの開催となりましたが、訪れた方々は、大船渡ならではの花火と船団パレードを間近で堪能し、色鮮やかな夏の思い出ができた笑顔でした。

■問い合わせ 三陸・大船渡夏まつり実行委員会  
☎ 0192-26-2141

開催

第27回  
地域防災フォーラム開催盛岡市  
MORIOKA

活動報告の様子(写真提供:岩手大学地域防災研究センター)

令和3年8月2日(月)、岩手大学地域防災研究センターの主催で、第27回地域防災フォーラムが開催され、約100名が参加しました。

大槌高校、岩谷堂高校、岩泉高校、盛岡第四高校、釜石高校の生徒が参加したフォーラムは、活動報告とパネルディスカッションの2部構成で実施されました。第1部の高校生活動報告では、スマートフォンの防災アプリの活用や、学校ブランドの備蓄用食品の開発構想などの報告がありました。第2部のパネルディスカッションでは、各校の生徒が考えた防災、復興活動など、これまでの10年を振り返り、これからの10年に向けて学校や地域において「私たちができることは何か」を考えました。

参加した生徒は、地域を巻き込んだ防災の新たな取り組みや情報発信に向けて行動していくことを改めて決意しました。

■問い合わせ 岩手大学地域防災研究センター  
☎ 019-621-6448

紹介

いわて震災津波アーカイブ  
~希望~のご紹介

岩手県では、東日本大震災津波の発災前や直後、その後の復興の様子の写真・動画・新聞記事など、震災津波に関する約24万点の資料をインターネット上で検索・閲覧できる「いわて震災津波アーカイブ~希望~」を開設しています。

キーワードやテーマなどからお知りになりたい情報を簡単に調べることができます。資料のダウンロードも可能ですので、震災学習や自由研究などにぜひご活用ください。

「いわて震災津波アーカイブ」で検索

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課  
☎ 019-629-6945

気になる  
テーマを  
クリック!

>>テーマから探す



そなえ

いつでも起こりうる大規模災害に  
普段からそなえることが大切です。



結いの力

地域の力が住民の命を守り、  
復興の原動力にもなります。



支援から絆へ

多くの支援と支那が生む絆が、応急  
対策と復興の原動力になります。



配慮が必要な人へ

災害時には年齢、障がいの有無、  
性別などへの配慮が必要となります。



前例なき対応

前例にとられない柔軟な対応が  
災害時には求められます。



ふるさといわて三陸

「ふるさといわて三陸」の魅力は  
震災があっても変わりません。

令和3年7月アクセス数

1位



いわて復興の歩み2021(動画版)

3位



宮古市閉伊川の河口付近

2位



奇跡の一本松





## 愛宕参道 大鳥居

東日本大震災津波の記録と脅威を後世に伝えています。



令和3年7月に震災遺構に登録された愛宕参道大鳥居は、平成13年8月に建立され、高さ13.4mと東北でも有数の大きさを誇っており、村民や観光客から街のシンボルとして親しまれています。東日本大震災津波の際は、大津波によって壊された住家等が流れ重なり、亀裂が入るなど被害を受けましたが、倒れることなく立ち続けました。

現在、大鳥居付近に震災前後の街並みを紹介する写真パネルが設置され、震災津波の記録と脅威を後世に伝えています。

また、愛宕参道広場では、毎月6日、26日に「参道市」、16日に「16日市」が開かれ、参道の両脇に田楽豆腐などの郷土料理や野菜、花を売るお店などが並びます。

**場所** 岩手県九戸郡野田村大字野田第26地割16

**問い合わせ** 野田村観光協会 ☎ 0194-78-2012



2013年愛宕神社例大祭野田まつりの様子 (写真提供: 野田村観光協会)



震災前後の街並み写真パネル



# いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介します。第122回は田端涼輔さんをご紹介します



～一人一人の個性で課題に向き合う力～

### PROFILE

三重県津市出身。大学卒業後、平成30年度から3年間、久慈市地域おこし協力隊の一員として活動。現在は同市の「YAMANECO COFFEE LAB」代表として、キッチンカーでコーヒーを移動販売。中学校でのサッカー指導や、コーラス団体での活動にも参加している。

### 被災地で感じた、人の温かさ

田端涼輔さんと岩手県とのつながりは、大学時代に参加したボランティア活動がきっかけでした。「地元の高齢者の方々とふれあう機会があったのですが、被災による辛さを感じさせず、応援に行ったはずが逆に元気をもらいました」と振り返ります。

大学卒業後は就職しましたが、ボランティアで接した人の温かさが忘れられず、岩手で仕事を探します。その中で見つけたのが、「久慈市地域おこし協力隊」の活動でした。久慈市の山根地区に「古民家を活用したカフェをオープンさせること」というミッションに、飲食店経験ゼロでしたが、思い切って挑戦することを決めました。

### 岩手で暮らす、かたちづくり

平成30年度に協力隊に着任し、カフェの内装・外装のデザインからメニュー構成まで、1年目から大忙しの日々を送り、令和元年7月、ついに開店を実現させました。翌年は新型コロナウイルス感染症の影響から一時休業を余儀なくされ、キッチンカーでのコーヒー販売を始めます。協力隊を退任した現在、カフェの運営は知人の佐々木智子さんが担当し、田端さんはキッチンカーでの販売に力を入れています。カフェやキッチンカーに高校生が手伝いにくるなど、地域との交流も生まれています。「美味しいコーヒーを追求しながら、若者が継続して地域に貢献できる仕組み作りなど、復興だけでなく地域の課題にも取り組んでいきたいです」と、田端さんは語ります。

### 岩手県の被害状況

令和3年7月31日現在

- 人的被害 死者：5,145人 (余震、震災関連死を含む)  
行方不明者：1,111人
- 建物被害 (住家のみ、全半壊) 26,079棟  
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

### 皆様のご支援、ありがとうございます

令和3年7月31日現在

- 義援金受付状況 約188億409万円(98,210件)
- 寄附金受付状況 約202億4888万円(11,065件)
- いわての学び希望基金(※)受付状況 約103億6224万円(25,800件)  
※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



## いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

[いわて震災津波アーカイブ](#)

[検索](#)



いわて復興だより 第176号

令和3年8月30日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・印刷／永代印刷株式会社